



学校だより

子供の「やる気」を育てます

10月号 令和6年9月30日
西東京市立保谷第一小学校
校長 原 之 雄
〒202-0004 西東京市下保谷1-4-4
TEL042-422-4513 FAX042-424-7117
<http://www.nishitokyo.ed.jp/e-houya1/>
e-mail e-houya1@nishitokyo.ed.jp

保谷第一小
ホームページ
QRコード



安心できる居場所に

教務主任

夏休みに受けた研修で民間企業に勤めている方々の話を聞く機会があり、その話の中で「7つの習慣」について考える時間がありました。「7つの習慣」(スティーブン・R・コヴィー著)という本は30年近く前に出版された本で、ご存知の方も多いと思います。私自身、題名は聞いたことがありましたが、読んだことはなかったので、研修後「13歳からわかる! 7つの習慣 自分を変えるレッスン」(監修「7つの習慣」編集部、日本図書センター)を読みました。研修で、印象に残ったのは第4の習慣、「最優先事項を優先すること」です。目標を達成するため、問題を解決するためには「緊急ではないけれど、重要なこと」は何かを考えて取り組むこと、そのための時間を増やすことが大切だということでした。

小学校は、入学してから卒業するまでの6年間で身に付けさせるべき学習内容を、決められた時間の中で学ばせる場です。どの時期にどんな学習をするのか、どんな行事に取り組むのか大体の流れは大きく変わることなく進められていきます。大体の流れの中で、どのような力を付けさせたいか、どうすればより効果的か、試行錯誤し工夫しながら、私たち教員は子どもたちと向き合っています。授業で子どもたちにふりかえりを書かせるのと同じように、教員も自分の授業を振り返ります。また、入学式や卒業式、一小まつりやスポーツデー、学習発表会など大きな行事の後には、「反省」を出し合い次年度に活かします。

限られた時間の中でより良い成果をあげようと努力することはもちろん大切ですし、今すぐにも変えられることや、やった方がいいことはどんどんやるべきだと思います。ただ、あれもしたいこれもしたい、あんなことも身に付けさせたい、こんなことも経験させたいと無理に詰め込んでしまうことで、自分だけでなく相手にも窮屈な思いや無理をさせてしまうかもしれません。ひいては、本来の目的を見失って、思ってもみなかったよくない結果につながってしまうかもしれません。

学校では分からないことが分かるようになる。

学校には他愛ないことで笑ったり、困っていることを相談できたりする友達や先生がいる。

学校はがんばっていることを応援してくれる。

学校では失敗しても間違えてもやり直すことができる。

学校には仲間がいる。でも、一人でいたい時には一人でいても違和感なく過ごせる。



学校には色々な「人」がいます。学校は色々な「顔」をもっています。学校は色々な「役目」ももっています。そんな「学校」だからこそ、子どもにとっても、地域・保護者の皆様にとっても、教員にとっても、安心できる居場所であり続けたいと思います。そして、そうあるためにも、重要なことは何かを考え続け、そのための時間を増やしていきたいと思います。

